

日 時：令和7年2月25日(火)

9:05～ 9:40 授業参観①

9:45～11:15 学校運営協議会

11:20～11:35 授業参観②

11:35～11:40 学校運営協議会

会 場：岩手県立盛岡となん支援学校視聴覚室

[委員名]

稲邊宣彦（社会福祉法人新生会障害者支援施設新生園施設長）

熊谷拡也（岩手県立療育センター事務局長）

小原 賢（矢巾町立矢巾東小学校校長）

名取泰博（藤沢自治会民生委員）

中島義信（本校 PTA 副会長）

中野真幸（本校校長）

近藤嘉文（ふれあいランドいわて館長）

野中伸悦（矢巾町役場福祉課長）

[盛岡となん支援学校 職員]

副校長：小山芳克、菅原寿枝 総括教務主任：藤村利子 総務主任：米屋初恵

[司会進行]：小山副校長

1 ICT教育の様子見学（高等部2年1組）

オンラインでの授業見学 「社会科」

2 開会のことば（会長）

3 校長あいさつ

本日が今年度の総括としての開催となる。委員の皆様には、次年度に繋がるような、学校評価、学校運営、今年度熟議から生まれ育ってきたこと、この部分を見ていただくことになる。学校の様子を見ていただく時間も設けている。今年度、「盛岡となん支援学校の学習の充実のために！&地域のために本校ができること」ということで熟議を行ってきた。私自身が「これいいんじゃないか」「やってみたいな」「ちょっと楽しそうだな」と思える取組になったことがありがたかった。「やってみて（やってきた）」進め方についても、「ゆるく」やったほうが色んな方向に舵がとれ「息切れしない」のないかなと感じている。そして、関わってくださる皆様にメリットをもたらすことに繋がっていけば、本当にいい取組になると考えている。そういうふうにつながっていればいいなと感じている。本日は、これまでの活動と成果について気付きを共有したい。皆様からぜひ忌憚のない御意見をいただきたい。どうぞよろしく申し上げます。

4 協議・熟議

(1) 学校評価結果「令和6年度 盛岡となん支援学校 学校評価」 資料と考察を参照しながら説明

質疑・応答

[委員]

- ・eメッセージのランニングコストや保護者のスマホとどのようにつなぐのか教えてほしい。
- ・利用者、保護者にアンケートを取っているが、委員会など立ち上げているのか。課題を改善して職員間どのように情報共有しているのか知りたい。

[学校]

- ・小中学校で早くから導入されている有料アプリ「eメッセージ」をPTAで予算を組んでもらえることになり導入した。「eメッセージ」を導入している小中学校では、出欠席の方も活用しているとは聞いているが、料金が追加されることもあり、本校ではまだ使っていない。
- ・今まで、下校時間のお知らせや講演会の案内ちらしを白黒印刷し紙媒体で渡していたが、すぐ情報を発信できるようになった。アプリなのでスマホを見てすぐ確認することもできるので、保護者から高評価を得ているので継続予定である。
- ・料金は8万円程度（契約初年度のみ契約料追加されていた。2年目からは、5万5千円程度となる。）100人以上だと少し安くなる。

[委員]

- ・セコムを利用し避難訓練の招集にも活用している。添付できないもので、1件110円である。添付はできないがメールでやり取りはできる。学校は、職員と保護者と人数が多いのでどのようなものを使っているか気になった。

[委員]

- ・県内の学校市町村でも違っている。矢巾町の場合は、連絡網みたいなリードコナンのものを使っていると思う。それを町の予算で賄ってやっている。普通のメールシステムで欠席連絡を受け取ることもできる。メールで送るので受け取ることもできる。メールの開封率が8割に届かないこと、家族6人まで登録できることから開封率にずれがでるといふ難しい問題があるため、大事な式などのお知らせは紙媒体にしている。

[委員]

- ・実際、有事の場合、災害時ではメールの方が早いというので数年前には入れたが、開封率というのがどうしても低く、避難訓練でも、休みの職員などは出勤してきてから教えられて知るといふこともあり改善が必要である。今はそういうものを使って連絡をしていく必要がある。東日本大震災でもショートメールは通じていたという実態もあった。そういうものを積極的に使って行かなければいけないと思っている。

[学校]

- ・学校でも未登録の方が15人ほどいる。その方には、紙媒体で何度か登録をお願いしているところである。

[委員]

- ・肢体不自由施設協議会では、個人の携帯に入れるのは、どうかということで賛否がある。大なり小なり通信料がかかることや土日も拘束されるなどいろいろな考え方があることや人数分100人分のスマホを準備することもできないため、「御協力をお願いします」という形で行っている。さらに通信料金や土日働かせるのかなど色々な考え方があるため全員の合意が得られないため、手段としては有効であるが西の方の施設等では入れていないということだった。

[委員]

- ・学校は、連絡網がなくなった。今までクラスごとにあった連絡網がなくなったことによって親同士が繋がれなくなってしまった。必ず学校を挟むのでそれはそれで面倒になった。例えば何かトラブルがあったときに、「謝りたいけれども、確認していただけますか」など学校が間に入りようになり遠回しな時代になってきた。良いようで悪いところもある。個人情報保護もあるため、どこまで取るかなど取り扱いが難しいことがある。

[司会]

- ・保護者の立場としてeメッセージを使ってみてどうか。

[委員]

- ・タイムリーに伝わっていい。以前、他の保護者から聞いた話だが、「何かを募集する。何かを応募するお便りが、締め切りの前日にもらった」ということだった。担任によってタイムラグがある。eメッセージのシステムがあると一斉に見ることができるが「見る。見ない」に関しては、人によるかと思う。

[司会]

- ・「eメッセージ」に関しては、参考にさせていただきながらよりよくいく情報が共有できるようなものを考えていきたい。

<職員の情報共有の改善について>

[学校]

- ・職員会議や、職員向けの業務共有フォルダがあるが、改善は必要である。

[委員]

- ・職員向けの掲示板的な情報共有システムは入れているのか。

[学校]

- ・職員会議向けのフォルダを月1回作っている。デスクネットメールがある。
- ・県立学校では、デスクネットというグループウェアで統一されている。

[委員]

- ・矢巾町のことでいえば、今年から県のデスクネットメールに入る予定だった。別のところとの契約があって令和7年度まで入っているため、令和8年度から入ることになっている。市町村でどのような契約になっているかで違っているのもう入っている市町村もある。

(2) 令和7年度学校運営計画(案)資料2参照しながら説明した。

特に「6 令和7年度学校経営の重点」については、「子ども福祉避難所における矢巾町との体制づくり」ということで新しく矢巾町と「子ども福祉避難所」を今年度内目途に締結する予定である。体制を作り上げるには時間がかかるので、訓練やシュミレーションしながら整えながら進めていく。また、新生園・第2新生園が福祉避難所になっているので相談や助言等いただきながら連携し、すみ分けしながら地域の方と整え進めていくというところである。来年度は、体制づくりを進めたいと考えている。

質疑・応答

[委員]

- ・児童生徒数が減っている中でとなんの生徒数は、変わるのか。見通しはどうか教えてほしい。

[学校]

- ・大きく変わっていないと思う。外部からの入学は前年度より少なかったが、内部は変わらないのではないかなと思う。
- ・重度重複の方が5~6割いる。知的代替3割、準ずる教育1割程度である。全国的にも同様の割合である。

[委員]

- ・新生園は、入所定員40人だが、現在在籍者は35人である。医大が近くに来て利用が増えると予想していたが、数字的にすぐ増えなかった。グループホームや社会福祉法人ではなく民間の会社でもどんどん作っているの、そういうところが吸収して受け入れている。うちとしてもグループホームを増やすことを考えている。卒業後の住む場所の選択肢が増えていると考えている。

[委員]

- ・グループホームの実情としては、ミサワホーム等で建てたものを一棟そのまま法人が借りる形になるので家賃が高くなる。法人としては家賃が4万～4万5千円と高く、地域生活を後押しするには勇気がいるという実態である。バリアフリー化もお風呂のスロープ一つとっても通常のアパートを建てるよりも高くなってしまう。部屋が空くと法人が家賃を負担しなければならないのでかなり苦しい現状がある。

[副校長]

- ・寄宿舎での入浴のさせ方を苦労している。こちらに引っ越してきた5～6年前までは、浴槽に自力で入浴できる子がいたが、自力で入浴できる子がいなくなり、近年職員が抱きかかえて入力させている。職員の肉体的な負担なども大きく苦労している。
- ・長期休業中にでも入浴のさせ方を機械浴なのか近隣の施設に見学させてもらいたいと寄宿舎職員と話していた。職員も一生懸命行っており入浴するときに職員の人数を増やすのかなど対応を検討しているところである。

[委員]

- ・こちらでは、手代森のところに寝たきりのお子さんのためにシャワーバスを導入している。450万円から600万円くらいと高額である。通所は実際見ることができると思う。
- ・つくしんぼとかがやきと法制度は違うが併用してもらっている。つくしんぼは、保育として、かがやきは、入浴中心と使い分けしている。市町村で使い分けを認めてもらっている。地域で生活される場合は、どうぞ利用してください。利用者を確保していきたい。

(3) 盛岡となん支援学校の学習の充実のために！&地域のために本校ができること

～インクルーシブ教育の推進と本校の教育活動による地域への発信～

パワーポイントでの説明と資料参照しながら説明した。

第2回目の学校運営協議会ではまず取組を発表し、大事なものは「その取組を通して、子どもたちがどう変わったのかを3回目の学校運営協議会で話したい」ということで終わっていた。残念ながら取組期間が短すぎたため、畑については農閑期になり子どもたちの積極的な取組み期間がなく、今年はまだ取組が浅い次期早々かなと思った。別な視点で今年取組として総括し取組は続くので、来年度に向けて今年御意見をいただきたいと思っている。今年サブテーマを「～インクルーシブ教育の推進と本校の教育活動による地域への発信～」と設けてみた。

質疑・応答

[司会]

- ・4つの取組をスライドでまとめとこれからに向けてというところまで説明があった。まず、それぞれの活動が地域のためになったかどうかも含めていかがだったか。御意見等いただきたい。

[委員]

- ・去年2回目秋に家で畑作業や芝生で遊んだりして帰るときに、子どもたちに向かって「また来たい人」って言ったら、ほぼ全員が「はい」と手を挙げた。私には「今一つこの子達本当に喜んでいるのか。楽しんでいるのか」分からなかったが「ああ本当なんだ。(楽しかったんだ。喜んでたんだ)」とすごく私にも分かった。たぶん畑がらみで接していく中で一番うれしかった。実際に接している蝦夷森会のみなさんもすごく喜んでいる。他の民生委員に、声を掛けるというのもある。もっと接する機会が増えたらいいなと思っている。
- ・この「校報となん」に関しても、最初は回覧だった。藤沢の私の班に関して言うと回覧はほとんど見ないで回してしまう。そこで「白黒でいいから藤沢には、全戸配付」にしてもらっている。藤沢以外に7つの自治

会があるだから合計8つある。全部回覧にするのかは、先生方に検討してもらいたい。

- ・今日の話聞きやはり素晴らしい。この会があったから、特に先生方が非常に前向きなのでどんどんつながりが増え素晴らしいなと思っている。

[司会]

- ・体験に終わるのではなく、続けることで意義がでてきて広がりも出てくるのかなということが感じられる。地域に存在を知らせることができたかについては、続けることに意義があることだと感じられることだと思う。

[委員]

- ・校報についてですが、たとえば、本校のメールシステムを使って、PDFをもらえたなら保護者へ簡単に送ることができる。PDFでデータをもらってうちのシステムを使えば少なくとも東小の保護者等の方々には、一斉にいけるので、方法とすれば地域にはなかなか難しいが、学校とのつながりといえばそれは可能である。地域の方は、公民館の方に貼ってもらうので1枚か2枚か瓦版の方を掲示してくださいとお願いしている状況である。

[委員]

- ・東小の方は、各地区の方に子供会があるから、小学校の子どもたちと地域と（関係ありますから）藤沢の花いっぱい運動の花を植えるときの主役は小学生と御父兄なので、子どもの親の方への影響はすごい。

5 ICT教育の様子見学2（中学部Ⅱグループ販売会のまとめの活動）

見学11:00～11:32まで 3グループに分かれて中学部授業見学

令和7年度の委員について

「司会」

- ・活動してきた中で、さらにこの方々が委員としてメンバーに加わっていただければ、もっと活動が充実していくのではないかなど委員として加わってほしい方がいたら紹介してほしい。

[委員]

- ・参考までに、全肢P連の会議で知り合った東京の学校では、吉本がメンバーで入っている。民間企業が入ると企業ならではの意見が出てくるといったことだった。

6 その他

感想・応援メッセージなど

[委員]

- ・学校評価で「子どもたちに命の大切さを教えてくださいか」という項目で31名の方が、しっかり「はい」と答えているのは素晴らしいなと思った。学校教育目標がいかに子どもたちの方にも浸透していると感じた。それから、この具体的な取組として、となんさんは、この矢巾に来てまだ歴史が浅いが、そのなかでも具体的な4つの取組、それが着実に成果をあげていると思っている。第1回目から今回3回目までのここでの議論を見ても着実に地域の学校になってきていると感じている。それも先生方の積極的な取組「ゆったりと」言いながらもやっていることは、ゆったりじゃなく、すごく頑張っていると思う。このように継続することが大切だと思うので、ぜひ息切れしないでやっていってほしいなと感じた。本日はありがとうございました。

[委員]

- ・今日は、ありがとうございました。昨年度から関わらせていただいてコロナの影響がだんだんなくなり、何ができるのかなということで始まったのがたくさんあった。でも、やはりそんなに急には結果が出ないもの

があると思うので、コロナが良いとは言いませんけれどもコロナをきっかけにして、新しいものを作っているという意味では、見直して必要なことは、先ほどおっしゃっていただいたが、「何のためにやるのか。子どもたちをどうしたいのか。」という部分にもどって見直し、「そのために何ができるのか。」それは今できることもあるし、3年5年かかるものもある。何なら10年かかるかもしれない。やらないよりは、一つでも進んだ方がいいし「どうやったらできるか」という話がでていたので、「やる・やらないじゃなくて、やっていきたいんだけど、どうやったらできますか。」といういい意見もでてくる。いい局面だなと思った。

- ・本校も地域とのつながりが弱いので、どうしたら地域とつながるにはどうしたらいいのかなということで、小学校でも総合的な学習の時間を見直してカリキュラムマネジメントを始めたところである。こちらに願うところも多いかと思うのでよろしくお願いします。本当に今日はありがとうございました。

[委員]

- ・先ほども話したが、先生方は非常に熱心で、こんなにいい先生方に恵まれて子どもたちはいいなと本当に思った。インクルーシブ教育というのは、10年20年後、周りの子どもたちが大きくなった時にこそ当たり前のようにこういう町になると思うので、これがずっと続くことでいいことなんだと非常に思う。本当にできることがあったら、御協力したいと思います。ありがとうございました。

[委員]

- ・4つの取組、すごくいいなと思っている。全部同じ速度でなくていいなと思っている。当然5つ目6つ目の新しいことが生まれてもいいのかなとも思っている。子どもたちもそうだが、地域の皆様にもなんらかのプラスになるのを発信していけるように取組を続けていければなと思っている。本日はありがとうございました。

[校長]

- ・今日のお話でもいろいろな「いいところかな、やっていいのかな」といいアイデアをいただいた。ありがとうございます。本当に WinWin の関係ということでかかわってくださる皆さんには、プラスになるそういった取組に今後もしていきたいなと思っている。御協力できるところは、一緒に進んでいきたいなと非常に思った今日の会議だった。授業を見ていて先生方と子どもたちでこのような取組がいったいどのような力をつけていくためにやっているのかななどと、基本にもどってじっくりまた考えて一緒に先生方とやっていきたいところだなと思った。本日はありがとうございました。

7 閉会の言葉（副会長）